

## 5. 上福田の農業

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中, 晃介 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/5003">http://hdl.handle.net/2297/5003</a>

## 5. 上福田の農業

中 晃 介

- I. はじめに
- II. 農業の方法
- III. 農業の変遷
- IV. おわりに

### I. はじめに

上福田で農業に携わる人たちに話を聞いた際、彼らが一様に口にしていたのが、上福田は、昔は大農業地帯で、それこそ今住宅地が並んでいるあたりはみな水田だった、という話だ。しかし、実際に目にした上福田は一部に大きな水田はあったが、それ以外はいたって普通の住宅地で、かつての面影はほとんど見られなかった。いったいどのような変化を経て上福田は現在のような姿になったのか。本章では、実際に農業を営んでいる人たちから聞いた話をもとにして上福田の農業の変化について触れていきたいと思う。

表1 農家数

	総農家数	専業農家	第一次兼業農家	第二次兼業農家
1960年	19	8	3	8
1970年	14	0	9	5
1975年	8	0	3	5
1980年	8	0	4	4
1985年	8	0	1	7
1990年	9	1	3	5
1995年	8	2	0	6
2000年	9	1	1	7

出所：「農業集落カード」

## II. 農業の方法

農業の方法は昔と今では大きくその形を変えている。ここでは、上福田で農業を営んでいる、専業農家のAさん（男性、80歳）の話をもとに具体的な農業の方法について、述べていく。ちなみに上福田における農業とは基本的に稲作のことを指す。

### 1. 昔の農業（1955年以前）

#### a. 2～3月

この時期の仕事は水田を整えて、田植えの準備をすることである。まず「株ふみ」と呼ばれる、去年の稲の株を踏んでつぶす作業を行う。その後、株を細かく刻む「株きり」、刻んだ株を土に混ぜて肥料にする「ならし」（うきうち）を済ませた後に2～3回田を耕し、水を引いてくる。

#### b. 5～6月

稲の種類によって時期をずらしながら一ヶ月にわたって田植えを行う。実際に稲を植えるのは女性の仕事で、男性は田んぼに稲を植えるための目印をつけたり、稲を植える人に苗を渡したりする。

#### c. 7～8月

夏の仕事は主に水田の管理だ。土を返して雑草を取る、主にカメムシなどの害虫を稲をはたいて落とす、といった作業を続ける。

#### d. 8月末～10月

早いものは8月末から稲刈りを行う。刈り取った稲は足で踏む、ふるいにかける、などして脱穀した後、「とおし」にかけて米ともみをわける。その後、米選機にかけてよい米と悪い米をわけ、俵に詰めて出荷になる。

#### e. 冬仕事

冬の間の仕事は稲わらで俵や縄をつくったり、女性は機織をしたりする。また、田んぼのあぜをたたいて固めたりもする。

昔の農業の特徴は、すべての作業が手作業であることから時間がかかる、ということである。たとえば、田植えは午前4時に作業が始まって午後8時以降までかかるという生活が一ヶ月続く。その他の作業も一日中かかりつきりにならない作業が毎日続く。農閑期も水田を維持するための仕事は多い。また、実際に農家の方に話を聞いていると、とにかく作業のつらさが強調される。基本的に一年中働きづめで、休みといえるような日はほとんどなく当時の農家は農業に従事せざるを得ない状況だったといえる。

## 2. 現代の農業

### a. 3月末

ハウス内で苗を育てる。または農協で苗を買う。

### b. 4月

トラクターを使って田起こし、ならしを行う。その後、コンバインを用いて田植えをして肥料をまく。

### c. 6~8月

夏の間の作業は水の管理と、数回農薬をまく程度だ。

### d. 8月中旬~9月

稲刈り、脱穀、精米などの作業をすべて機械で行うため、昔と比べて作業が減り、9月中にはほとんどが出荷可能になる。また、刈り取ったばかりの稲をもみのまま農協に持って行って買い取ってもらうカントリーエレベーターという制度も利用されるようになっている。

現代の農業をみていてまず目に付くのは、作業の少なさだ。昔と比べて農業を行う期間はほとんど半分になっているし、作業の内容もずいぶん簡略化されている。冬季などはまったくやることがないほどだ。現代の農作業は、以下で述べるが、さまざまな理由でとても楽なものになっている。

## III. 農業の変遷

### 1. 機械の導入

Aさんに聞いたところ、1955年ごろから始まった農業機械の導入によって農業のかたちは大きく変わった。さらに1970年後半に用いられるようになった耕耘機やコンバインなどの大型機械によって農家の仕事は大きく減ることになった。その一方で、これらの機械は費用がかかるために農家にとって大きな負担にもなっている。

農業用機械が導入されるまでは牛を使う家もあった。また、表1と比べて見るとわかるが、機械を用いるようになってからはほとんどの農家で機械が使われている。

### 2. 技術の進歩

農薬や除草剤の進歩によってかつて農家を苦勞させてきた雑草取りや害虫駆除がとても楽になった。また、害虫の被害が減ったことに加えて、稲の品種改良によって米の収穫量は増加している。

### 3. 農地の減少

国の減反政策にくわえ、上福田は住宅地化の影響で水田が減少した上、大聖寺川の工事にとりま

って水田をつぶしていったので現在は昔とは比較にならないほど水田は減少した（第11章参照）。

以上のように農業機械の使用や技術の進歩によって作業が減ったことと、機械や化学薬剤の導入にともなう費用の増加が兼業農家の増加の要因のひとつになっている。

表2 農用機械所有台数

	動力田植機	コンバイン
1960年	0	0
1970年	0	0
1975年	3	4
1980年	5	7
1985年	6	8
1990年	7	8
1995年	6	7
2000年	6	7

出所：「農業集落カード」

表3 経営耕地（面積の単位：a）

	田の面積	稲を作った面積
1960年	約1520	約1422
1970年	1740	1735
1975年	1278	1278
1980年	1252	1177
1985年	1151	1136
1990年	1401	1230
1995年	1633	1633
2000年	1542	1140

出所：「農業集落カード」

#### IV. おわりに

近年、農業従事者の減少や兼業農家の増加といった話がよく聞かれる。実際、私もそのとおりだと思っていたが、それは表面上の知識だけで中身の無いものだった。しかし農家の人たちと会って、直接話を聞いてその実態について多少知ることができたように思う。調査の後で思ったことは現在の農業を取り巻く状況は、複数の要素が絡み合った結果で、何かひとつの原因があって今のようになったわけではない、ということだ。たとえば、兼業農家が増えているのは農業だけでは生活していけないという理由に加えて、農作業が楽になったことによって農業以外の仕事と兼業できるようになったことも理由のひとつとしてあげられるのではないだろうか。

現代では農業はつらい、儲からないというイメージがある。確かにそういった面があるのは確かだ。しかしそれだけではないのではないかと。農家の人たちと話をして、彼らは今農業をやっているという感じは受けなかった。今回の調査の結果、私たちが農業について知っていることはそんなに多くないのではないかと、思った。